

# GLOBALG. A. P 認証取得に向けた取組の公開視察研修報告書

高知県立高知農業高等学校  
農業総合科 教諭 小川 雅司

## 1 研修の概要

### 【研修場所】

青森県立五所川原農林高等学校  
(青森県五所川原市大字一野坪字朝日田 12 の 37)

### 【日程及び内容】

9月20日(木) 9:00~17:00 書類審査(第一体育館)  
9月21日(金) 9:00~17:00 現地審査、書類審査(ほ場、会議室)

### 【認証対象】

- ①コンバイン作物・・・コメ
- ②青果物・・・リンゴ、メロン、ジャガイモ

### 【対象生徒】

GAP チーム (42名 : 3年生 10名 2年生 8名 1年生 25名)

### 【公開対象】

生産者 農業関係団体 教育関係者 農林業関係者 他

## 2 研修の報告、成果

本校から2名の教員が参加した。視察会場に向かう中で、大きさ、色づきこそばらばらであったが高知県では見たこともない広大なリンゴ畑の景色に2人で感動した。

五所川原農林高校が GLOBALG. A. P 認証取得に至った理由であるが、「世界の常識知らずして、日本農業の未来はない」という経緯からである。世界の常識とは、グローバル・アグリビジネスにおける農産物の安全に係る第三者認証であり、その最大のシェアを占める GLOBALG. A. P 認証である。世界 130 国 約 184,900 に及ぶ経営体が認証を受けている。一方、日本での同認証取得数は約 480 経営体、全体の約 0.26%である。そもそも日本の農業は、生産工程レベルが高いことや少量、多品種栽培が多く、国内流通に主眼を置いていることから、第三者認証による安全性の証明は必要がなかった。しかし急速に進むグローバル化に伴い、未来を担う高校生にはこの世界の常識を教えなければならないと考え、有志 15 名の生徒のもと、平成 27 年度 8 月より GAP チームを立ち上げていた。12 月にはリンゴで GLOBALG. A. P を認証取得しており、日本の高校で初めての取得となった。翌年の平成 28 年度にはコメで、平成 29 年度にはメロンで認証取得している。4 年目にあたる平成 30 年度は、あらたにジャガイモでの認証にチャレンジしていた。

本校でも来年度より、コメで JG. A. P 認証を目指す目標を掲げている。そこで今回の視察から学んだ、これらの GLOBALG. A. P を認証取得するまでのプロセスをまとめてみた。

### 1 G. A. P チーム立ち上げ

- ・チーム結成
- ・担当者決め

## 2 認証に向けた準備

### ①現状の把握、課題の検討

- ・チェックリストの入手 ・審査までのスケジュール作成
- ・園地、施設を巡回し課題の絞り込み

### ②施設の改善

- ・施設内の整理、改善 ・農薬、肥料保管庫の整理、改善

### ③園地の整備

- ・入園マニュアル ・園地内表示

### ④記録の整備

- ・作業日誌 ・農薬肥料の散布記録 ・安全確保対策、有事対応マニュアルなどの体制整備

## 3 チェックリストの総点検

## 4 審査機関への審査申込

## 5 審査

- ・国際的な第3者審査機関による審査 ・書類の審査 ・園地状況の確認

## 6 是正措置

## 7 GLOBALG. A. P を認証取得

今回のこのプロセスを参考に、本校でもコメの JG. A. P 認証に向け取り組もうと考えている。

私は、これまでに愛媛県のブドウでの GLOBALG. A. P 認証公開審査を見学させてもらったが、今回も同様、書類審査、現地審査ともに全て生徒が回答するものであった。特に今回の見学では、ほぼ全ての審査を担当生徒だけで答えていた。こうして G. A. P 認証に向けての取り組みの中で、生徒が自信を持って答えていることが特に印象に残った。

五所川原農林高校では GLOBALG. A. P を学んだ生徒の成長ぶりに確信を持ったということで、平成 28 年度には、全学科の生徒が学ぶ科目「農業と環境」で教育課程に組み込み、世界基準で日本の農業を牽引しうる卒業生を毎年送り出している。

また GLOBALG. A. P では農業に関わる全員が農産物、労働者、環境等に対する安全への規範意識をもって初めて持続可能な農業になっていく。審査を通じて、「隠し事をさせない、ウソをつかせない人間関係」を構築し、取り組み前までは力仕事や労働力として見られた生徒が、一生産者として議論できるようになるなど、人づくりに多大な効果をもたらしているといっていた。また、この 4 年間で進路志望にも変化が起こり、農業関連以外への産業志望から農業関連産業への志望者が増加したそうである。

私は、恥ずかしながら G. A. P 認証をすることは、オリンピック、パラリンピックに向けての単なるアクションだと考えていた。しかし自分自身が、JG. A. P の指導員資格、そして GLOBALG. A. P の認証取得公開審査視察へ参加させてもらう中で、普段の自分自身の仕事への関わり方にも大きく影響し、さらには人づくり、農業関連産業への従事増加といった点で、生徒へも大きく貢献できるという考えに変わった。

本視察研修に参加させていただく機会を与えていただき、本当に有難うございました。



写真1：五所川原農林高校の風景



写真2：ほ場（注意点揭示①）



写真3：ほ場（注意点揭示②）



写真4：薬品管理（整理整頓、管理点の掲示）



写真5：農薬事故に備えて（掲示）



写真6：外部審査（コメのほ場）



写真7：外部審査（リンゴのほ場）



写真8：道具管理の様子



写真9：資材管理の様子



写真10：農業機械庫



写真11：書類審査の様子①



写真12：書類審査の様子②